

1992年末における筆者のまとめた兵庫県産の甲虫類は 111科 3,139種である（科数並びに種類数が異なるのは播磨地域から見つかっていない科並びに種が兵庫県には産するからである。）したがって大雑把にみて兵庫県産甲虫類の1/3の種類の子息が東播磨から見られることになる。

キイロミヤマカミキリ兵庫県下での記録

（兵庫県甲虫類相資料・282）

高橋 寿郎

キイロミヤマカミキリ *Margites (Margites) fulvidus* (Pascoe, 1858)の兵庫県下の記録は筆者の知っている限りでは神戸市本山〔関, 1941〕, 洲本市三熊山〔金田, 1978〕の2例しかなくかなり珍しいカミキリムシのように思う。



キイロミヤマカミキリ

Margites fulvidus (Pascoe, 1858)
神戸市北区藍那 1993年5月21日採集
♀ 体長19mm
U.Hachitani Photo.

1993年5月21日神戸市北区藍那でゼフィルスをねらって高い所にある栗の花を捕虫網ですくっていた蜂谷幸雄氏が身体のおそばに飛んで来たカミキリムシを採集された。それを筆者が頂き帰宅後調べたところキイロミヤマカミキリの♀（体長19mm）であった。さらに6月28日同じ藍那でこんどは栗の花を捕虫網ですくって1♀（体長17mm）が採集出来た。前回の場所とそれ程離れた所ではなかった。三熊山では燈火に来たとある。ほとんど県下での記録が知られていないようなので此処に記録しておく。

寄生植物としてスダジイ、ツブラシイがあげられている（日本産カミキリムシ検索図説, 1992）。

分布からして南方系種のようなのである。

記録についての参考文献

- 関 公一 (1941) 兵庫県産の天牛科甲虫.
昆虫界 9 (89):27.
- 金田 昌七 (1978) 淡路より未記録のカミキリ3種.
Parnassius (19):15.

オオサルハムシ 神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・283)

高橋 寿郎

オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly, 1859 は種名にあたるようにBaly氏によって北部中国産で1859年記載された種である。日本からは同じくBaly氏によって1874年に Hiogo [現在の神戸市] を記録されたのが始めてである。採集者は G. Lewis 氏である。この時 Lewis 氏によると山地にいる種であるとのコメントがついている。

Heyden 氏は1879年 Dr. Rein が本種をやはり Hiogo (神戸) で得ていると記録している。

ここで本種についての分類学的経緯を筆者所有の文献でみてる。

1874年に出版された Dr. Gemminger と B. de Harold 氏による甲虫目録に本種は出て来るが分布は “China bor Sibiria” とあって日本はふくまれていない。

Lewis 氏による1879年の “日本産甲虫目録” には勿論出てくるがこれには産地も分布もついていない。

Schönfeldt, H. V. 氏の “日本産甲虫目録” (1887) には出て来て産地は Hiogo のみになっている。

1914年のユンクのカタログには分布は Nordchina, Amur, Japan, Korea となっている。

土井久作氏は1927年の論文で南満州公主嶺及び朝鮮の花山, 京城からの記録を示されると共に記載もされているし詳しい解説をしておられる。

松村松年博士は1931年カラーで図説をされた。その解説には本州及び朝鮮に産する普通種にして甘藷の葉を食害するとされている。出現期5-6月とされ分布は本州, 九州, 朝鮮, 満州, 支那となってい